



総務常任委員会



厚生文教常任委員会



産業建設常任委員会



6日間にわたり『事務事業評価』を調査

9月議会定例会中の9月21日から30日まで、事務事業評価に関する各常任委員会による所管事務の調査が行われました。

この事務事業評価は、平成20年度に市が導入したもので、限られた財源の中で効率的な行政運営を行うため、現在行っている事務事業がどのような成果を挙げているかを、客観的に評価・検証するものであります。

これまでも、議会全員協議会で、執行部から報告を受けていましたが、867にもなる膨大な事業数を、日程的な理由から、わずか1日で審査せざるを得ず、十分な審査体制を確保することが不可能であり、また、定期的に3月に

企画調整課の『地域コミュニケーション支援事業』については、「市内全体から見ると、事業の対象が一部の町に偏っているのではないか。今後

市民生活課の『国民健康保険特別会計事業』では、「特定健診受診率が年々下がっているが、未受診者の把握と受診勧奨は実施しているか。」との質疑があり、「40歳以上の働きざかりの未受診者に対し、健診と健康づくり事業への案内を行っている。」との答弁がありました。

文化振興課の『文化振興事業』では、「内部評価委員会評価は、収入の確保と経営努力を求めているが、一方実績では全て100%を超えている。指標のあげ方そのものが、根本から間違っているのではないか。」また、「選択した指標が適切ではない。そもそも原因の把握・分析が間違っているのではないか。」など、各常任委員会を通じて指標などに対する疑問の声が次々に出されました。

REPORT 視察研修

今後のまちづくりや議会運営に活かします。

議会運営委員会

平成23年7月28日～29日

宮崎県こばやし小林市・鹿児島県きりしま霧島市

議会広報編集特別委員会

平成23年8月18日～19日

鹿児島県あいら始良市・ひおき日置市

議会広報編集特別委員会

始良市議会の広報等調査特別委員会は、4常任委員会から2名選出され、計8名で構成されております。

主な特色は、オールカラー刷りにしていることで、紙面が明るくなり、掲載する写真が映え、全体的に分かりやすく読みやすい紙面となっております。

また、市民が市の政治に直接参画できる手段として、請願書や陳情書の提出方法なども掲載しております。

日置市議会の広報編集委員会は、3常任委員から2名選出され、計6名で構成され

ております。

主な特色は、表裏面カラーの2色刷りで、表紙は「子どもの笑顔」をテーマに作成しており、読者の目を引く紙面となっております。

また、特集記事では、事業の説明や一般質問の追跡調査などを掲載しております。

本委員会も、議会、だより『声のかけ橋』を介して市民の皆さまと議会をより強く結びつけていくためにも、「読んでもらえる議会だより」をモットーに、分かりやすく読みやすい紙面づくりに取り組んでまいります。



議会運営委員会

小林市議会は、議員数22名で8会派からなり、一般質問は質問時間のみで一人30分以内としております。議会改革の取り組みとして議会改革特別委員会を設置し、議会基本条例の素案を成文化するために、現在、協議していることでもあります。

霧島市議会は、議員数34名で6会派からなり、政務調査費は一人につき月額3万円です。一般質問は小林市議会と同様、質問時間のみで一人30分以内としております。ケーブルテレビによる一般質問の

放送は、演壇で行う1回目の質問とその答弁のみに限定しております。議会改革の取り組みとしては、平成21年10月に議会基本条例を全会一致で可決、施行され、また議会報告会については、第1回目を本年4月に実施し、7会場で合計167名の参加者があったそうです。

終わりに、議会改革は全国的な流れではありませんが、市民の要望と地方の実情を的確に判断し、独自の議会改革を進めていくことが真に開かれた議会であるということ再度確認できました。



小林市議会での研修風景